

み んの 文 芸

中田國太郎選 投稿数15首

日捲りをめくりて秋の風音に残りの時の侘しさ覚ゆ (評) 分厚い目めくりの曆も「日」ごとに薄くなり、秋の風音を聞く頃には、一年の残りの時と同時に老いの余生にも侘しさを感じるという、しみじみとした歌になっている。秋は、小さな風の音とともにやってくる。「あきぬとめにはさやかに見えねども風のを」とぞおどろかねぬ」と古人も詠んでいる。この日本人の繊細な感覚は、現在も「千の風になって」と生きている。浅見作、長寿を全うした母の生き方に感動、結句の「母は耐へ逝く」がいい。山本作、厳しい現実に耐えて、ますますお元気で、いい歌を。新井作、人生最高の喜びの歌。

「物言は良きに解釈して生きよ」と九十五年を母は耐へ逝く 下日野沢 浅見 豊子
 車椅子手をかりて行く路の辺に栗の実重く微笑みてあり 下日野沢 山本ミチノ
 初初孫の娘は父に寄りバージンロード君の許へと 皆野 新井 愛子
 好物でありしきの子のおつきりこみ祭壇の夫に声かけ供う 三沢 真下 杏子
 金婚の祝賀に招かる隣人の子供四人の名付親われ 皆野 金子善次郎
 しばらくと声を掛け合ふ同窓会柞の森に若きひと日を 三沢 新井 民子
 絶え間なき車の通過見送りて漸く渡る彩甲斐の道 三沢 新井 叶子
 今朝もまだ雨降り止まず出水あとポツンとひとつ曇珠沙華咲く上日野沢 四方田利男
 想い出を残して友は天国へ真赤にもえて彼岸花咲く 皆野 新井 茂
 好みける祭太鼓の音高し母もはや逝き追慕しきりに 皆野 笠原三江子
 嵐去り濁流騒ぐ爪跡は虫の音遠く戻り待ちわび 下日野沢 安井 光代
 菊作る友は去り行き秋彼岸思ひ出のこし菊は咲くなり 三沢 横田 龍雲

引間豊作選 投稿数24句

ビニールの紅葉の秋やビルの街 (評) なるほどそう言われてみるとあるある。地方ではいやでも時季になれば、四季の移り変りの風景を楽しめるが、都会のしかもビルの街となれば、全くと言ってよいほど季節感から遠ざかる。そんな都会の真ん中での駅舎とかデパートの内部に、花や葉を見立てた四季折り折りのレブリカが自見える。掲句のビニール製の紅葉も、すっかり秋となった渓谷における懸崖を思わせる様な枝に、その下を行き交う人々の脳裡には、何時か何処かで観た曇る彷彿とさせている。そんな齟齬の場面を二句に仕立てた感性を讃嘆。

子供等の手伝う郷の芋煮会 此の郷のみんな笑顔で敬老会
 下日野沢 佐藤 清子
 藤原 道男 下日野沢 根岸 進
 三沢 新井 叶子 赤い花幾万本の秋田道
 下日野沢 根岸 進
 三沢 新井 叶子 星光を拾いあつめて友徳ぶ
 国神 松岡 千恵
 皆野 大沼シツ子 蛇行路時を知らせる曼珠沙華
 下日野沢 柏木 カネ
 下日野沢 高山 ユウ 同胞の集いし此の日秋彼岸
 金崎 設楽 武子
 三沢 長谷河ソノ 香しい庭一面に木犀の香
 三沢 沢野 恒平
 金沢 青木富佐子 三沢 沢野 恒平

俳句・短歌を募集
 作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して企画課へお寄せください。
 8日必着 1人1句、1首に限ります。

平成20年版 11月14日(水) 県民の日 発売!

埼玉県民手帳

各種統計数値や生活便利情報を掲載。過去5年分の毎日の天気もわかります。ぜひ、ご利用ください。

販売場所

- 企画課 (2階)
- 書店 (一部書店では取り寄せとなります)

問合せ

企画課企画係
 ☎62-1230 内線231

グレイッシュブルー 黒 500円